

①作物分野

部署	課題名	研究期間	概要
本・支	県単【食糧確保・生産力向上プロジェクト】 中山間地における自給率の向上に向けた水稲生産システムの開発	R8～R12	育苗を省略でき作期分散に繋がる水稲直播栽培技術を確立するとともに、作業計画時に必須となる生育期予測技術を再構築する。また、東濃県域で地元の安定的な需要が見込まれる酒造好適米新品種「酔むすび」について、晩植における収量向上技術と品質確保・向上のための生育予測技術を開発する。
本	県単【異常高温を乗り越える農業創出プロジェクト】 中山間地域における気候変動に適応した水稲新品種開発と品種選定	R7～R9	高温による影響を軽減するため、難穂発芽性等を有する新品種を育成する。さらに高温に強い山間高冷地向け主食用品種の選定を行う。
本	県単【重点研究】 飛騨地域の水稲に適した新たな低コスト環境配慮型施肥体系の確立	R6～R10	飛騨コシヒカリにおいて収量性、食味を確保しつつ、環境配慮型かつ低コストの施肥体系技術の開発を行う。
支	県単【地域密着型研究】 水稲の多様なニーズに応えるオリジナル新品種の育成	R4～R8	県産米に対する生産者並びに実需者の多様なニーズに応えられる水稲新品種の育成を行う。その中で、県内酒造業者から切望されている大吟醸酒によるブランド商品開発に有利な大吟醸酒に適する酒造好適米品種を育成する。

②野菜分野

部署	課題名	研究期間	概要
本	県単【異常高温を乗り越える農業創出プロジェクト】 夏ホウレンソウ栽培の高温対策技術の確立	R7～R9	夏季高温期の収量及び品質の安定を目的として、主要品種の良好な生育を確保できる条件(日射量、気温)を明確化するとともに、必要となる日射量が確保できる安価な遮光技術を開発する。
本・支	県単【異常高温を乗り越える農業創出プロジェクト】 異常高温に起因した環境変化に適応可能な夏秋トマト生産技術の確立	R7～R9	夏の異常高温や局所的豪雨に対応するため、着果性向上、根圏環境の改善により適応可能な技術を開発する。さらに夏期の影響を回避する作型等を開発する。
本	県単【農畜水産業の革新的経営環境強化プロジェクト】 AIを活用した画像解析等によるスマート生育診断・スマート商流技術の開発(夏秋トマト)	R6～R10	AIを活用した画像解析等による新たなスマート生育診断技術及び果実サイズを予測し市場へ精度の高い情報を提供できるスマート商流技術を開発する。
本	県単【農畜水産業のみどり戦略プロジェクト】 環境にやさしい生産管理技術の開発(夏秋トマト)	R6～R9	トマトを対象として、環境にやさしい有機JAS適合農業や天敵の活用技術、新たな防除資材開発など減農薬につながる要素技術の開発と体系化を行う。
本	県単【農畜水産業のみどり戦略プロジェクト】 環境にやさしい生産管理技術の開発(夏ホウレンソウ)	R5～R9	ホウレンソウを対象として、環境にやさしい有機JAS適合農業や天敵の活用技術、新たな防除資材開発など減農薬につながる要素技術の開発と体系化を行う。
本	県単【重点研究】 ホウレンソウ収穫機の改良による出荷調製作業の省力化技術の開発	R7～R11	従来よりも少ない雇用者で生産規模の維持・拡大が可能となるよう、収穫後に雇用者が行っている出荷調製作業を、収穫と同時に進める収穫・調製機を開発する。
本・支	県単【重点研究】 夏秋トマトの育苗管理及び定植作業の省力化技術の開発	R8～R10	生分解性不織布ポットと吸水性シート、自動灌水を組み合わせる育苗にかかる灌水作業を自動化し、大幅な育苗管理の省力化を図る。また、同ポットのままで定植して、定植準備及び定植作業の省力化を図り、定植遅れや作業遅れによる収量の低下を防ぐ技術を開発する。
本	県単【地域密着型研究】 夏ホウレンソウ栽培に対応した土壌還元消毒技術の確立	R8～R10	ホウレンソウ栽培において、土壌還元消毒が活用可能な栽培技術となるよう処理期間を短縮可能な処理方法を開発するとともに、休作ハウスに実施した場合の効果維持期間等について明らかにする。
本・支	県単【地域密着型研究】 中山間地域における果菜類の安定生産・コスト低減技術の開発	R6～R10	夏秋トマトの育苗管理における省力化技術及び産地の課題に対応した生産安定技術を開発する。夏秋トマト及び夏秋なすC11:F193Sシステムの低コスト技術を開発する。

③花き分野

部署	課題名	研究期間	概要
支	県単【農畜水産業の革新的経営環境強化プロジェクト】 切り花フランネルフラワーの出荷・品質予測システムと品質保持技術の開発	R7～R10	切り花フランネルフラワーのマーケットニーズに応える出荷時期と切花品質について、中山間地域における予測システムを開発する。
本・支	県単【地域密着型研究】 多様なニーズに応える中山間地域の花き育種と栽培技術の開発	R7～R11	鉢花では、黄花香シクラメンの開花遅延防止技術、耐寒性宿根草等の新品種育成、省力化可能なシクラメン品種の選定や育成品種を開発する。切花では、トルコギキョウの品種比較を行う。

④果樹分野

部署	課題名	研究期間	概要
支	県単【食糧確保・生産力向上プロジェクト】 クリ栽培の省力化、多収生産を可能とする早期成園化技術の開発	R8～R12	新樹形と当所育成新品種「えな大豊」を組み合わせ、機械化に対応でき且つ未収益期間を短縮可能な早期成園化技術を開発する。また、若木期以降の収量安定のため、生育不良や急性枯死の原因を明らかにし、その診断技術と対策技術を開発する。
本・支	県単【異常高温を乗り越える農業創出プロジェクト】 中山間地域果樹産地の強化をめざした気候変動適応技術の開発	R7～R9	夏の高温に対応した品種・仕立て方の開発、耐暑性や高温による障害発生への影響の評価、新品目の導入適期の予測を行う。
本	県単【農畜水産業のみどり戦略プロジェクト】 IPMによる継続可能なリンゴの病害虫防除体系の確立	R7～R9	農研機構が中心となって提案している個々の病害虫に対するIPM技術について飛騨地域における効果を検証するとともに、これら技術を組合わせた防除体系を確立することで、持続可能なリンゴ生産を目指す。
支	県単・外資【地域密着型研究】 クリ産地維持・拡大に向けた新品種育成および安定生産技術の開発	R4～R8	実需のニーズに適した新品種、温暖化に適応できる新品種の育成に取り組むとともに、県育成品種の安定生産のための栽培技術を開発する。また、ドローンやAIなど活用し、生育情報(温暖化後の収穫期、作柄予測)を効率的に高い精度で提供(DX化)する手法を確立する。
本	県単【地域密着型研究】 モモ、リンゴ等の生産安定技術開発と品種選定	R4～R8	モモの耐凍性台木「ひだ国府紅しだれ」の改良育苗体系を開発すると共に新たな台木を育成する。リンゴでは、雪に強い新仕立て法について検証する。さらに、モモとリンゴの新品種について飛騨地域への適応性を評価する。